

年表：ProSAVANA における農民・市民社会組織の参加・コンサルテーションの推移【ドラフト 9 月 30 日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識)

年月	ProSAVANA イベント 政府	現地農民・市民社会組織 日本の NGO	現地農民・市民社会による「参加」「協議」 に関する理解
2009 年 9 月	ProSAVANA 政府間合意		
2009 年 10 月～ 2010 年 3 月	ProSAVANA 準備調査		20 農家インタビュー (大中小含む)
2011 年度～	研究能力・技術移転向上支援 (ProSAVANA-PI)		
2011 年 11 月	ProSAVANA-PD 合意		
2012 年 2 月～	ProSAVANA-PD に基づくマ スタープラン策定開始		
	PD インセプションレポート発 表 (コンサル@JICA)		
2012 年 4 月	PD 第 1 回ステークホルダー MTG (調査手法) (Nampula, Lichinga, Quelimane, A. Molocue)		合計 10 人の農民 (Lichinga, Quelimane 皆 無)、ドナーと一緒にカウントされ人数不明 な NGO。Quelimane は皆無。最大でもドナ ー入れて 5 名以下。
2012 年 4 月 16 日～20 日	日・ブラジル・モザンビーク官 民合同ミッション派遣		地元農民組織・市民社会との会合なし。政府 関係者・地元ビジネス関係者のみとの会合が Nampula と Lichinga で実施。
2012 年 4 月～8 月		UNAC ・ ORAM の ProSAVANA 調査開始	
2012 年 8 月		ProSAVANA 関係者への調査 結果開示とコメント受付	実質的な内容に関する会談 (しかし CSO 側 が要請して実現)
2012 年 9 月	ProSAVANA Development Initiative Fund(PDIF) 発表		
2012 年 10 月 11 日		UNAC による ProSAVANA 抗議声明	
2012 年 10 月下 旬		Niassa 農民組織・CSO によ る農業省出先機関での日本 大使への面談要求	州農民組織 UPCN、農民支援組織 ORAM、 その他が農民とともに駆け付ける。
2012 年 11 月	第 2 回ステークホルダーMTG (Nampula, Maputo)		Niassa や Zambezia 州では開催せず。 Nampula で農民 4 名、Maputo でゼロ。NGO はドナーとカウントで 3 名と 10 名。
2012 年 11 月 15 日	JICA 坂口幸太氏 ProSAVANA に関する講演会		「対話はしている」との説明有。 Nampula の IKURU と Niassa の ALIMI と 「良い対話」との説明。UNAC 抗議について は、「誤解。モザンビーク政府に市民社会に 対応してもらおう」と返答あり。
2012 年 12 月 14 日		NGO・外務省/ODA 政策協議 会での ProSAVANA に関する 日本 NGO の問題提起	外務省：「準備調査で農民と話した」「UNAC は 4 月の stakeholder meeting に参加 (ゆえ 対話あり)」と説明。
2013 年 1 月 25 日		第一回 NGO・外務省意見交 換会開催。ステークホルダー 参加の環境 NGO・JA!より協 議の手法への異議。	
2013 年 2 月 22 日	JICA 理事長のモザンビーク訪 問。「正確な情報を地元農民や 現地の人々へ共有するためモ ザンビーク政府のオーナーシ ップ期待」と発表		
同日	ProSAVANA による対象全 19 郡での District Meeting (Consultative Council) 開始		Consultative Council と郡都で開始。(3 月ま でに Nampula 及び Zambezia 州)
2013 年 2 月下旬		UNAC 代表・JA!スタッフ来 日。外務省表敬訪問 (26 日)。 議員会館での学習会 (27 日)、 北大 (25 日)、東大でのセミ	NGO 側から JICA へのセミナーへの繰り返 しの参加要請への辞退が、当日参加に変更。 但し「何故中国やヨーロッパ投資を問題にし ないのか」の会場での質問。また終了後、「す

年表：ProSAVANA における農民・市民社会組織の参加・コンサルテーションの推移【ドラフト 9 月 30 日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識)

		ナー (28 日) で講演。	べて誤解」とコメント有。
2013 年 2 月 28 日	ProSAVANA による対象全 19 郡での District Meeting (Farmers meeting) 開始		Farmers meeting が各郡都で開始。(3 月までに Nampula 及び Zambezia 州)
2013 年 3 月 13 日	参議院 ODA 委員会議員訪問時の UNAC との面会		当初は日本大使館での開催が、帰国予定の変更でキャンセルになっていたにもかかわらず UNAC に連絡せず、議員の時間変更提案も知らされないままであった。日本 NGO の調整で、最終的に空港で面会実現。大使と JICA 所長が「(今後は) 誠実に対応」と約束
2013 年 3 月 18 日 (N)、21 日 (M)	第 3 回ステークホルダー MTG(Nampula, Maputo)	UNAC、JA!等、本件に問題意識を持った多くの NGO が参加	Maputo 参加 NGO によると多くの疑問に「実のある返答はなく、時間による質問打ち切りがあった」との見解。 Nampula でも CSO の関与のなさについて問題提起。
2013 年 4 月 2 日	JICA's ProSAVANA High Level Seminar モザンビーク農業大臣・各州知事・農業省関係者・ProSAVANA 関係者・ブラジル ABC, EMBRAPA, FGV	モザンビークから唯一「農民組織代表」として農業省が選り、来日した UPCN (UNAC の Niassa 州支部)。	UNAC の下部組織である点が事前に情報開示されず、セミナー時も JICA による PPT 改変により伏せられる。NGO との面談時で、JICA ProSAVANA コーディネーターが、「UPCN が疑問を農業省に投げてきたから招待」を「ProSAVANA への期待を日本人に小農として説明するため来日」と訳す。
2013 年 4 月上旬		国際 NGO・GRAIN による PD Report1&2 のリーク	
2013 年 4 月 17 日		国際小農デーでの UPCN による声明と ProSAVANA 抗議マーチ	
2013 年 4 月 29 日		リーク文書の分析に基づくモザンビーク・国際 NGO より「共同声明」発表	
2013 年 5 月下旬-6 月上旬		UNAC 代表・Nampula CSO Platform 書記長の来日。	
2013 年 5 月 28 日		23 団体による 3 か国首脳への「公開書簡」発表・外務省表敬訪問 (28 日)・JICA との個別ミーティング (30 日)	NGO 側からの要請で JICA との個別面談が実現。JICA が「対話の前提」としての緊急停止ではなく、「手法」に拘ったため同意は得られず。
2013 年 6 月後半から	(PDIF の第二次公募説明会を 3 州で開催)		現地 23 団体 (公開書簡署名) も ProSAVANA 意見交換会参加の日本 NGO も知らされず。
2013 年 6 月 18 日	会合前日、農業省 ProSAVANA FP+JICA が PPOSC 事務局長一人を夕食に誘う。		PPOSC 相談し 3 名で行くものの、共同コミュニケーション作成を合意させられる。
2013 年 6 月 19 日	農業省と PPOSC 対話		開始前に共同コミュニケーション案が提示され、参加者の抗議がある。
2013 年 7 月 12 日	第 5 回 NGO・外務省意見交換会		外務省「現地市民社会が準備出来るまで待ちたい」との意見も、既に PDIF 二次公募実施 (その説明なし)。
2013 年 8 月 8 日	モザンビーク農業大臣、首相代理の右記会議への参加あり。日本・ブラジル政府代表団発言機会あるも欠席。	UNAC・ORAM 共催 ProSAVANA に関する 3 か国民衆会議 (「公開書簡」署名 23 団体の代表参加)	大使館も JICA も欠席の理由を「直前の招待のため」とするが、代理出席や担当者の出席は行わず。モザンビーク政府側代表は真摯に疑問に応えよう、対話をしようという姿勢があった。
2013 年 8 月 8 日	PPOSC 事務局長個人名宛、Master Plan 予定送付		他州の CSO プラットフォーム、UNAC その他の Stakeholder 会議参加者らへの送付がなく PPOSC 「一本釣り」との認識深まる。
2013 年 8 月中旬	農業大臣、ProSAVANA 反対者は「陰謀者」と語る一方、情報不足を認め「コミュニティレベルでの説明を推		

年表：ProSAVANA における農民・市民社会組織の参加・コンサルテーションの推移【ドラフト 9 月 30 日】
 (モザンビーク農民・市民社会組織からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識)

	進する」と談話		
2013 年 8 月 13 日		PPOSC の会議での MP 予定表協議	「一方的な提案・方法」と PPOSC メンバーが強く反発。PPOSC として仕切り直しを求めるメール送付。
	農業省 Nampula 州局長の市民社会呼び出し (同席 ProSAVANA FP2 名 +JICA コンサル 2 名)	PPOSC 代表 2 名と日本 CSO1 名	局長からの携帯への繰り返しの呼び出しに対応し「表敬訪問」。面会中、言論の自由を侵害する発言が局長と同席農業省関係者に行われる。
2013 年 8 月 28 日-29 日		北部 3 州農民大会 (政府・農業省関係者、ProSAVANA FP が出席)	ProSAVANA FP による UNAC 代表への発言が「脅迫」として受け止められる。
2013 年 8 月 30 日	ProSAVANA FP による UNAC 外 Niassa NGOs への協力要請		UNAC 外しへの UNAC 反発。
2013 年 9 月 3 日	PPOSC に共同作業部会提案: FP による UNAC 非難、UNAC 以外の NGO に「対話」と「マスタープランにアラインするための集会協力」に合意と述べる。		他方、Niassa 州市民社会プラットフォームへの正式要請なし。PPOSC、UNAC、ニアサ市民社会プラットフォーム、その他 NGO の反発
9 月 13 日/18 日	ProSAVANA マスタープラン策定チーム	PPOSC、9 月 3 日会合その他を問題視し会合キャンセル	
2013 年 9 月 19 日	ProSAVANA FP による PPOSC 議長宛レターで一方的に 24 日の会議を告知		PPOSC に「圧力」として受け止められる。
2013 年 9 月 23 日	ProSAVANA チームの Niassa 州クアンパでの「コンセプショナルノートに関するディベート」開催後にコミニケ発表		UNAC、PPOSC 反発。
2013 年 9 月 30 日		日本 NGO 「早急なる中絶と抜本見直し」声明	
2013 年 10 月●日 (日付は 9 月 30 日)		PPOSC 抗議声明をプレスリリース発表	UNAC 排除批判 JICA が名指し批判
2013 年 10 月 17 日	ProSAVANA チームによる PPOSC 事務局長への夕食誘い		PPOSC 工作と理解、反発
同日	10 月 18 日に意見交換会出席依頼		PPOSC、出席拒否 この間の圧力が増す
2013 年 10 月 21 日	政府軍による RENAMO 党首拠点の軍事襲撃、政治情勢の不安定化、市民の誘拐が相次ぐ (警察関係者関与)		
	和平合意の破棄と、軍事衝突の頻発。ナンプーラも頻繁に衝突。		PPOSC メンバー、不安を感じコンセプトノートの問題点が多く、このまま黙っていると通ってしまうことを危惧し、11 月 4 日に意見表明を同意。
2013 年 11 月 1 日			PPOSC : いつも ProSAVANA 側に行われる事前の議事録作成を情報操作として拒否

年表：ProSAVANAにおける農民・市民社会組織の参加・コンサルテーションの推移【ドラフト9月30日】
(モザンビーク農民・市民社会組織からみた「参加」「コンサルテーション」に関する認識)

2013年11月4日	コンセプトノートに関する意見表明 会議	35項目にわたる批判	同意なしの録音と録画をPPOSC側が発見し審議中断。2項目目までの発表。溝。
------------	------------------------	------------	--